

地域の森林生態系を学ぶ森林教室

令和7年度における最初の森林教室を6月5日（木）滝沢市にある国立岩手山青少年交流の家で行いました。

対象者は、安代小学校5年生10名でした。

当日は、まず教室内で授業を行い、それから野外で樹木の観察などを行いました。

今回のテーマは、「岩手県北の内陸に位置する安代地域の身近な樹木であるブナ・ミズナラ」としました。

講義では、当地域の周辺に広がっているブナ・ミズナラの森は、日本の冷温帯を代表する植生であり、寒冷な東北地方を特徴付ける森が広がっていることを知ってもらいました。

また、地域の生物多様性や森林生態系を実感してもらうために、周辺の国有林内で見つけたカブトムシの大きな幼虫を持っていったところ、とても興味深々と観察してもらえました。



ブナ・ミズナラの講義



森の生き物を観察

野外の広場では、どんぐりから芽を出したミズナラを観察し、これがやがて大きくなって地域の森になっていくということを学習してもらいました。

生徒たちには、地域の木や森のことを良く知ってもらいながら、自然と親しくなったと実感できる森林教室にしていきたいと思います。



どんぐりからの実苗を観察